

# マレーシア人日本語学習者の ICT 学習ツール使用状況について

## —マラヤ大学予備教育部日本留学特別コースにおける調査結果をもとに—

On usage of ICT tools for Japanese language learning by Malaysian students: Based on survey at Rancangan Persediaan Khas Jepun, Center for Foundation Studies in Science, University Malaya

Maisarah Binti Kamal・朽方修一・崖高延  
University of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia

### 1. 目的

本発表の目的は、マラヤ大学予備教育部日本留学特別コースに在籍する学習者が、日本語を学習する際、また理系科目（数学、物理、化学）を学習する際にどのような ICT 学習ツールをどのような目的で使用しているのか、アンケート調査によりその実態を明らかにすることである。そして、その結果に基づき、どのような学習支援が可能か考察することである。

### 2. 調査の背景と先行研究

インターネットとスマートフォン（以下スマホ）の普及に伴い、教室内外での外国語学習の際に、紙の辞書や電子辞書の使用がほとんど見られなくなった。これはマラヤ大学予備教育部日本留学特別コース（以下 RPKJ）で日本語を学ぶ学習者にも当てはまり、彼らもなんらかの ICT ツールを使用していることが普段の授業の様子から見て取れる。学習者はいわゆるデジタルネイティブ世代であり、教師が学生だった時とは異なる学習ツールを使用し、異なる学習スタイルで勉強している。したがって、教師は時代、環境に合わせた学習支援をするために学習者がどのような ICT 学習ツールをどのような目的で使用しているのかを知っておく必要があると思われる。そこで、2022年8月に RPKJ に入学した学習者を対象に日本語および理系科目（数学、物理、化学）を学習する際に使用する ICT 学習ツールについて調査を行った。これまで学習者の ICT 学習ツールの使用に関しては、渋谷・清水（2017）、鈴木ほか（2018）、林ほか（2021）などの先行研究があるが、マレーシア人日本語学習者に焦点を当てた調査はまだ行われていない。また、いずれも日本語学習についての調査であり、理系科目学習の際に用いる ICT ツールまでは言及していない。RPKJ では日本語だけでなく理系科目の学習も重要であり、日本語を担当する教師と理系科目を担当する教師との連携も必要不可欠となる。今回の調査結果の共有は今後の授業改善に向けて有益となると考えられ、マレーシア国内の他の大学進学予備教育機関への情報提供となり得る。

### 3. 調査概要

調査の概要は以下の通りである。

- ・調査期間：2023年7月3日～7日
- ・調査対象：43名（2022年8月入学 第41期生）
- ・調査方法：無記名式アンケート紙による調査（選択肢&自由記述）
- ・アンケートの内容：ICT 学習ツールについて、スマホのアプリとウェブサイト（以下サイト）に限定し、使用状況を①②の通り調査した。

- ①日本語の勉強をするときスマホのアプリ・サイトを使うかどうか、該当するものを選んでもらった。使う場合どのようなアプリ・サイトを使うか、それぞれ3つまでその目的と合わせて自由に書いてもらった。またそのアプリ・サイトの良い点、悪い点があれば書いてもらった。
- ②理系科目（数学・物理・化学）の勉強をするときスマホのアプリ・サイトを使うかどうか、該当するものを選んでもらった。使う場合どのようなスマホのアプリ・サイトを使うか、3つまでその目的と合わせて自由に書いてもらった。またそのスマホのアプリ・サイトの良い点、悪い点があれば書いてもらった。

#### 4. 調査結果

アンケートの回答者は40名であった。以下、調査項目別に結果を示す。

##### 4. 1 日本語を勉強するときに使うアプリについて

「日本語を勉強するとき、スマホのアプリを使うか」という問いには、「非常によく使う」の回答が14名、「よく使う」の回答が19名、「時々使う」の回答が7名であった。「使わない」という回答は0であった。学習者の全員が日本語を勉強するとき、なんらかのスマホのアプリを使用していることになる。次に使用しているアプリの名前を挙げてもらったが、平均して2.22個のアプリを挙げ、20種のアプリ名が挙げられた。特定できなかったアプリは2種あったが、18種のアプリは存在が確認できた。表1にまとめて示す。

表1 日本語の勉強時によく使うアプリ名

順位	アプリ名	回答数	順位	アプリ名	回答数
1	Quizlet Flashcards & Homework	20	10	imiwa?	2
2	Google Translate	16	12	Japanese Grammer	1
3	Shirabe Jisho (ios)	14	12	mazii	1
4	PORO - Kanji Study(ios)	7	12	JLPT : Japanese Test Practice(ios)	1
4	Japanese (renzo Inc.)	7	12	Duolingo - Language Lessons	1
6	Easy Japanese News やさしい日本語ニュース(TODAI)	4	12	Umi - Language Learning	1
7	Japanese Kanji Study(android)	3	12	Jsho - Japanese Dictionary(android)	1
7	Japanese Dictionary Takoboto(android)	3	12	日語達人 - 環遊日本大冒険(android)	1
7	Spotify - Music and Podcasts	3	12	shirabemono(?)	1
10	YouTube	2		合計数	89

(ios)はApp Storeのみでダウンロード可、(android)はGoogle Play Storeのみでダウンロード可

注意がないものはどちらでもダウンロード可

アプリの使用目的としては「漢字の意味と言葉を調べる」という辞書として使用している回答が38と一番多かった。学習者は普段電子辞書、紙の辞書などを使っておらず、スマホの辞書アプリを使用している状況が明確になった。次に多かった回答は「言葉、漢字を覚える」というもので、18あった。これは主にQuizletというアプリを使用している。Quizletはいわゆる単語カードアプリであるが、自動でクイズやテスト作成もできるアプリである。学習者は、毎日行われる漢字・語彙クイズや復習テスト対策として使用しているようである。3番目に多かった回答は「文の翻訳」で13あった。この上位3つで69の回答があり、89回答中の77.5%を占める。

回答の中には少数ではあるが、「読解のため」、「聴解のため」にアプリを使用している者もいる。「辞書」や「翻訳」のように補助的にアプリを使用するのではなく、アプリを使って日本語を勉強している学習者もいることがわかった。

使用しているアプリの長所と短所についてもいくつか回答があった。長所の上位3つは「例文が多い」、「使い方が簡単」、「漢字の書き方がわかる」であった。他には「指で書いて調べられる」や「どこでも使える」といったスマホならではの長所も挙げた。短所の上位3つは「翻訳が正確でないときがある」や「有料の機能」があるといったものも挙げたが、「悪い点はない」というアプリに満足している学習者もいることがわかった。また「単語カード」系アプリを使用している学習者からは「自分で flashcard を作らなければならない」や「自分で flashcard を作らなければならないから、間違えたら、そのまま覚えてしまう」という意見もあった。

#### 4. 2 日本語を勉強するときに使うサイトについて

「日本語を勉強するとき、サイトを使うか」という問いには、「非常によく使う」の回答が5名、「よく使う」の回答が4名、「時々使う」の回答が4名であった。「あまり使わない」の回答が17名、「全く使わない」の回答は9名で、無回答が1名であった。「使う」派が32.5%、「使わない」派が65%という結果であった。回答があった9種類のサイトは全て確認ができた。

表2 日本語の勉強時によく使うサイト名

順位	サイト名	回答数
1	Jisho.org: Japanese Dictionary	5
2	Google Translate	4
3	jlptsensei.com	2
4	hedgehog-japanese.com	1
4	Google Chrome	1
4	Hinative.com	1
4	takoboto.jp	1
4	NHK WEB EASY	1
4	maggiesensei.com	1
	合計数	17

使用しているサイトの上位2つはアプリ同様、「辞書」と「翻訳」というものであった。

「Google Translate」はアプリとサイトの回答数を合わせると20となる。学生の半数が使用しているということになる。アプリの回答で上位にあった単語カードのサイト使用はなかった。

#### 4. 3 理系科目を勉強するときに使うアプリについて

「理系科目を勉強するとき、スマホのアプリを使うか」という問いには、「よく使う」の回答者が3名、「時々使う」の回答者が9名であった。反対に「あまり使わない」が12名、「全く使わない」が15名で、無記者が1名であった。「使う」派が30.8%、「使わない」派が69.2%となった。

日本語を勉強するときと比較すると、理系科目を勉強するときにはアプリを使用する割合が少ないことがわかった。また、使用するアプリも日本語を勉強しているときに使用するアプリと異なることがわかった。

表3 理系科目の勉強時によく使うアプリ名

順位	アプリ名	回答数
1	YouTube	9
2	Google Translate	5
3	photomath	2
4	Shirabe Jisho (ios)	1
4	imiwa?	1
	合計数	18

日本語を勉強するときに使用するアプリでは「辞書」系、「翻訳」系が多かったが、理系科目を勉強するときに一番使用するアプリは YouTube であった。使用目的としては「授業がわからないときに見る」や「授業が難しいとき英語で見る」といった「授業を理解するために動画を見る」という理由であった。授業がわからないときに教師に直接質問するのではなく、授業外に一人で確認しているようである。

また「photomath」というアプリは、数学の問題を写真に撮れば、問題の解き方の解説と答えが自動で出てくるアプリである。このアプリの使用目的は「数学の解き方を知る」ためであった。どのようなときに使用しているのかは不明であるが、これも確認するためのアプリである。

#### 4. 4 理系科目を勉強するときに使うサイトについて

「理系科目を勉強するとき、サイトを使うか」という問いには、「よく使う」の回答が1名、「時々使う」の回答が3名であった。「あまり使わない」の回答が16名、「全く使わない」の回答は17名で、無回答が3名であった。「使う」派が10.8%、「使わない」派が89.2%という結果であった。

アプリの不利用率は約7割であったが、サイトの不利用率は約9割であった。理系科目を勉強するときには、ほとんどの学生がサイトを使用していないことがわかった。

理系科目を勉強するときに使用するサイトには「辞書」系、「翻訳」系はなくなり、一番使用するウェブサイトは YouTube であった。使用目的は「わからない授業の動画を見る」だけでなく、「化学の実験を見るため」というものもあった。

表4 理系科目の勉強時によく使うサイト名

順位	アプリ名	回答数
1	YouTube	3
2	Google Chrome	2
3	Yahoo!JAPAN	1
	合計数	6

## 5. 考察

RPKJの学習者は日本語を勉強する際には、全員がアプリを使用していることがわかった。アプリの内訳としては「単語カード」系、「翻訳」系、「辞書」系の順が多かった。サイトを使用する学習者は32.5%にとどまった。サイトでも「辞書」系、「翻訳」系が多かったが、「単語カード」系はなかった。

今回の調査で学習者の使用しているアプリやサイトが明らかになったが、教師はまずそのアプリやサイトが使うに値するものなのか確認し、学習者の求める情報が得られるかどうか知っておく必要がある。そして、適切な使い方は学習者のニーズに応じて考えて指導していく必要がある。4.1でも述べたが、「単語カード」系アプリを使用している学習者から「自分で flashcard を作らなければならない」、「自分で flashcard を作らなければならないから、間違えたら、そのまま覚えてしまう」という意見が見られた。学習支援の一例として、より効果的かつ正確に日本語が学習できるように教師がアプリ用の flashcard を作成し、学習者と共有するという活動が考えられる。もしくは、クラス活動の一つとして、学習者に flashcard を作らせ、教師が内容を確認した上で、flashcard をクラスで共有することもできる。

また、今回の調査から得られたアプリやサイトは新入生に紹介することもできる。使いやすく有益なアプリやサイトを入学時に学習者に紹介をすることも今の ICT 時代だからこそ教師の重要な役割であると考えられる。

理系科目を勉強する際、アプリを使用する学習者は 30.8%、ウェブサイトを使用する学習者は 10.8%であった。理系科目を勉強する際にはあまりアプリ、サイトを使用していないことがわかった。またアプリ、サイトの使用者の約半分が YouTube を使用していることがわかった。YouTube の使用目的は「わからない授業の動画を見る」というものがほとんどであった。マイサラ (2016:12) は、日本語力の問題で聞きたいことが教師にうまく伝えられない学生がいることを指摘している。教師に直接質問できないために YouTube を使用している可能性もある。今回の調査では、学習者が「わからない」と感じているのは、数学や物理の計算のしかたなのか、授業で使用される日本語なのかを明確に知ることができなかったが、調査結果を理系科目担当教師と共有することはできる。RPKJ の第一の目的は日本留学試験合格であり、そのためには日本語担当教師と理系科目担当教師が連携していかなければならない。それぞれに与えられた役割をこなすだけでなく、教師間で情報を共有し授業、教育に活かしていくことが、学習支援にもつながっていくのではないかと考えられる。

## 参考文献

- 渋谷博子・清水由貴子 (2017) 「日本語学習者および教師への学習ツールに関する調査—デジタル時代の教師の役割とは— (報告)」『日本語教育研究』63, pp.34-50.
- 鈴木智美・清水由貴子・渋谷博子・中村彰・藤村知子 (2018) 「予備教育課程の国費学部留学生の学習ツール使用状況—2016~2017 年度実施のアンケート調査の結果から見えるスマートフォンアプリの使用目的の多様化と学習スタイルの変化—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』44, pp.195-217
- 林希和子・陳静怡・李雪 (2021) 「JSL 学習者の日本語実践における ICT ツールの使用状況：モバイル端末の利活用に関する質問紙調査報告」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25, pp.75-83

マイサラ ビンティ カマール (2016) 「海外の予備教育での専門日本語教育のための基礎研究  
—マレーシアの予備教育機関 AAJ の物理科目を事例に一」 『金沢大学大学院人間社会環境研  
究科修士論文』